

会派 至誠・公明 岡元浩一 議員

1 財政について

- (1) 平成18年以降の合併特例債、平成13年度から導入された臨時財政対策債等の市債残高及び基金残高の今後予想される推移を示されたい。
- (2) 本年度一般会計予算の歳出予算の性質別で、約30パーセントを占める155億3,000万円の扶助費について、今後予想される推移を示されたい。
- (3) 鹿屋女子高整備事業や肝属中部畑地かんがい事業の償還など大型事業が終了したが、今後想定される普通建設事業費の推移を示されたい。
- (4) 令和2年度コロナ対策関連事業費等を示されたい。

2 鹿屋市国土強靱化地域計画について

- (1) 本年度8月に鹿屋市国土強靱化地域計画を策定したが、国、県が防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策として事業を行ったように、本市においても緊急対策として早急に取り組むべき事業を示されたい。
また、昨年7月豪雨の災害箇所について現在どの程度復旧し、いつまでに復旧工事が完了するのか示されたい。
- (2) 令和2年7月豪雨や感染症対策等踏まえ、避難所の整備など緊急対策事業として市内全ての避難所の空調設備及び予備電源の確保を行うべきと考えるが、6か年計画の中で進めていく考えはないか示されたい。

3 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

- (1) 本市のワクチン接種実施計画における接種体制はどのようになっているか。
- (2) 在宅介護を受けている介護度の高い高齢者や重度障がい者(児)のワクチン接種と同じタイミングで、その介護者もワクチンを接種できるように計画されているか。
- (3) 接種台帳システムの整備や接種記録の管理及び案内通知(クーポン券)の印刷発送と予診票の準備等について進捗状況を示されたい。

会派 至誠・公明 岡元浩一 議員

- (4) 市民への情報提供、広報はどのように行われるのか。
また、コールセンターの役割と運用体制を示されたい。
- (5) 現時点で見込まれる接種開始の時期を対象者別に示されたい。
- (6) ワクチン接種後も、手指の消毒励行やソーシャルディスタンスを取るなどのウィズコロナの認識を持ち続けることが重要であると考えるが、本市の見解を示されたい。

4 高齢者のフレイル(虚弱)予防について

- (1) コロナ禍における長引く自粛生活等により高齢者の心身の健康が懸念される。
高齢者のフレイル予防を具体的にどのように進めるのか。

5 デジタル化について

- (1) 国において今秋デジタル庁が創設されるが、スマート自治体推進事業はもちろん、市民サービス等もデジタル化を推進するための、今後の計画と概要を示されたい。
- (2) 全ての市民が対象となるため、誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化が求められるが、高齢者や障がい者等へのサポート体制を示されたい。
- (3) 防災や観光、教育などデジタル化が進む中、どんな時でも情報を得ることのできるWi-Fiステーションの整備を急ぐべきだが、そのような考えはないか。

6 コロナ禍に打ち克つ「自学」の勧めについて

- (1) 児童生徒の教育環境は新型コロナウイルス感染症により大きな転換期を迎えた。
IT機器の導入が、その一翼を担うものである。しかし、忘れてならないのが、子どもたちの社会性や協調性を育む読解力である。「自学」は平時だけでなくあらゆる災害時にも対応できる教育手段と考えるが、以下の点について示されたい。
 - ① 国の「GIGAスクール構想」に基づき、小中学生に情報通信機器が一人1台行き渡ることになるが、本市のスケジュールとその教育方針について示されたい。

会派 至誠・公明 岡元浩一 議員

- ② 政府は義務教育標準法の改正を閣議決定し、県も35人学級の対応を表明した。
また、鹿児島県教育委員会は、令和4年度の教員採用から専門性の高い人材を確保するなどの為に、離職者の採用を積極的に取り組むとしているが、教育長の見解を求める。
- ③ 近年、児童生徒の読書に関する取組の向上が見て取れる。現状と今後の読書教育及びこの子どもたちの将来像をどのように捉えているのか示されたい。
- ④ IT化で「変換するだけ」の教育で終わる可能性がある。「読み・書き」を補い個性豊かな人材形成に新聞等を活用した「自学」を推奨するが、教育長の見解を求める。